

平成22年度 赤土小学校 学校経営計画

学校長 安 齋 正 彦

1 めざす学校像、児童・生徒像、教師像	
○学校像	全教職員の理解と協力を得て、 <u>児童の考えを大切に</u> した地域・父母の期待に応える 「あいうえお学校」 (あ) 明るく 温かい 学校 (い) いそしみ合う 学校 (う) 美しさのある 学校 (え) 衛生的に いきとどいた 学校 (お) 教え合い磨き合い 教師自らが成長していく 学校
○児童・生徒像	話し合う・学び合う・遊び合う・協力し合う・助け合うなど「～し合う」態度を身に付け、人として生きる喜びを感じ、 <u>自分と相手や周囲と関わり合うこと</u> を通して自らの個性や能力を伸ばす児童 よく考え、実行する子・・・個性や能力が伸びる子供 思いやりのある子・・・自分や他人を大切にする心をもつ子供 元気な子・・・・・・・・・・健康や体力づくりを進める子供
○教師像	子供の考えを生かしながら、豊かな心と愛情と言葉と表情で接することのできる教師

2 中期目標 (3年間)		
区 分	中期目標	目標実現のための具体的な方策
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営づくりと安定化 ・教育課題重点項目の解決 ・円滑な校舎設備の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課題の解決、教育課程円滑実施のための柔軟な組織の編成 ・学習や生活指導、児童理解の重点課題選定と解決方策の決定 ・校舎中期維持に伴う設備、備品等の必須品目の一覧作成 (学校図書館の情報センター化、各教室のネットワーク化、放送設備の充実化)
児童・生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活等のルールの遵守 ・学習習慣、学習規律の確立 ・PISA型学力の向上 ・学習意欲の喚起 ・自然や文化への感性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物「赤土版・授業規律一覧表」の指導と啓発。 ・「赤土版・家庭学習のすすめ」による学習習慣定着への啓発。 ・問題解決能力向上、学び方習得、読書量と補充学習量の増加。 ・課題意識の喚起および動機づけの工夫、自己効力感の高揚。 ・自然環境充実と意図的な働きかけ、理科好きな子どもの育成。
教 師	<ul style="list-style-type: none"> ・児童理解、対応力の向上 ・授業力の向上 ・組織の企画、運営力等の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・心理相談員との日常的相談、ケーススタディ研修会等の開催。 ・全員による研究授業公開や実技研修の実施、授業改善を中心に据えた組織的校内研修会の実施 ・全教職員、全児童を動かす責任者の立場を経験させる。
保護者・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・我が子の教育、学校教育への関心度を高める。 ・地域人材の多様な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観、個人面談、連絡帳等を通じて子供の変容をきめ細かく伝える。学習定着度調査の返還時、授業診断や学校評価等の調査を通じて学校への願いを集約し学校改善に反映させる。 ・総合的学習、各教科、ふれあい行事等で地域の人材を生かす。

3 22年度の重点目標		
区分	重点目標	目標実現のための具体的な方策
学 校	・組織の活性化と会議の精選を図り、教師と児童の向き合う時間と場を確保する。	・勤務時間の弾力的な運用。A勤務時間とB勤務時間の設定。 ・職員会議や運営委員会のもち方の工夫 ・生活時程の改善による6校時終了2時45分化と放課後時間の確保 ・水曜日以外6校時授業後の会議等拘束時間の一定化 ・放課後学習教室の開設と学習ボランティアの充実 ・地域や保護者ボランティアの活用化
児童・生徒	・朝遊びの励行と放課後遊びの日常化を図り、体力向上と早起き・早寝の生活リズムへの改善を図る。	・「東京都スポーツ教育推進校」としての助成金を活用による朝遊び看護員の配置 ・朝と放課後遊びのルールづくりと指導の徹底 ・トップスポーツアスリートの招聘と体育学習指導の活性化 ・第九中学校との体力づくりの連携。朝の体力作りトレーニングへの積極的な奨励。親子参加への啓発 ・年2回の生活実態調査の実施と生活リズムの変容分析
教 師	・児童一人一人の学習意欲の喚起を図り、問題解決能力を育成する。	・研究主題「自ら考え、ともに学び合う子の育成」の設定。「自然に親しむ大好きな子、調べる活動大好きな子、学び合い大好きな子」を目指す理科・生活科の授業実践 ・理科・生活科についての児童、教師の意識調査実施と変容分析 ・学力向上を図るための調査の活用
保護者・地域	・家庭学習の定着化を図る。 ・学校関係者評価の活性化を図る。	・赤土版「家庭学習の手引き」の改善。年間通して活用できるリーフレット「家庭学習のすすめ」の作成 ・家庭学習がんばろう週間の年間4回設定。リーフレットを活用した実践結果の記入と見直し ・ノーゲーム、テレビデーの実施と結果分析 ・学校評価計画を見直しと評価内容の吟味。恒常的なアクションプランと実行と発信

22年度の到達目標

学 校	児童・生徒	教 師	保護者・地域
◎組織の活性化と会議の精選を図り、教師と児童の向き合う時間と場を確保する。 ・職員会議と運営委員会の45分間会議100% ・放課後学習教室週4回の実施率：1学期5割 ・その日のうちの学習定着度100%のための個別指導実施日：1学期5割 ・学習ボランティア週4日どの日も5人以上へ1学期：月ごとにプラス1を目指す。	◎朝遊びの励行と放課後遊びの日常化を図り、体力向上と早起き・早寝の生活リズムへの改善を図る。 ・朝遊び率を1学期末には2割以上 ・看護員の稼働率100% ・早起き早寝の習慣を1学期末には2割から4割へ ・学期一回以上のスポーツアスリート招聘 ・第九中学校早朝体力トレーニング参加者1学期末で20世帯以上	◎児童一人一人の学習意欲の喚起を図り、問題解決能力を育成する。 ・月一回以上のショート実技研修会の実施100% ・学年6本の研究授業と全員の授業公開（視点を含めた略案作成）100% ・都小理の実技研修会に年一回以上選択参加100% ・児童の理科・生活科好きを1学期末には4割から5割以上へあげる。 ・理科室、生活科室の整備率は1学期5割以上 ・5年理科学力調査の達成率の前年度比アップ ・理科支援員による日々の授業準備の効率アップ（教員の意識調査実施）	◎家庭学習の定着化を図る。 ・がんばろう週間年4回完全実施100% ・活用リーフレットの回収率100% ・ノーゲーム、テレビデーの実施率1学期：4割以上 ◎学校関係者評価の活性化を図る。 ・評議員の公開週間参加率100% ・授業診断の肯定回答率の学期ごとアップ ・学校評価各項目の前年度比アップ

5 現状のよさと課題

区 分	よ さ と 課 題
学 校	<p>〔よさ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開校86年目の学校として、教職員、保護者が今日的な教育課題を意識しながら学校を創り上げていこうとする機運があり、地域も伝統ある学校づくりへの維持協力をおしまない。 ・ 由緒ある尾久地区の小学校の一つとして、地域や歴史を大切にする人間を育てようとしている。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統的に作られた学校運営組織や児童の指導体制などを、より望ましいものに改善し続けていく必要がある。 ・ 児童の学習環境や生活環境づくりのさらなる充実を、校舎維持、施設・設備改善との関連で図っていかなくてはならない。
児童・生徒	<p>〔よさ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人は素直で子供らしく、人なつっこい児童が大半を占めのびのびしている。 ・ 学習や生活面で具体的な目標に向かって前向きに努力する。 ・ 教科学習や読書活動での学校図書館メディアの活用を通して、読書量もアップしている。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習する態度や学習への構えをしっかりと定着させ、学ぶ力や学習意欲および自己効力感および問題解決能力の向上を図る。 ・ どの学年も学習定着度、特に理数が区平均を上回るように指導法の改善を図る。 ・ 生活リズムの安定化、あいさつや言葉づかいの改善など、家庭との連携をおし進める。
教 師	<p>〔よさ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師一人一人が、一生懸命に児童の指導にあたり、教材研究に努めている。 ・ 地域や保護者の声に謙虚であり、自分自身の姿勢を振り返ろうとしている。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の教師の持ち味を総合的に、組織的に発揮させ、児童・保護者に範を示していく。 ・ 学習指導法、生活指導などについて互いの教師経験を生かした学校づくりをする。その一方で、これまでの経験にとらわれない教育のありようを追求、実践していく。 ・ 近隣の幼保中学校や地域・PTA・町会行事に積極的にかかわるようにしていく。
保護者・地域	<p>〔よさ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商店街や工場や小売店、昔からの住宅街と混在しており職人気質の下町情緒がある。 ・ 数世代にわたって地元に住み、学校に通わせているという家庭もかなりあり、地域や学校への愛着を強く持っている。・ 諸機関や高齢者、町会等が学校に協力的である。 ・ 母親によるボランティア、読み聞かせ活動の参加も多く、学校評議員からも温かい支援を受けている。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 我が子の学校生活や友人関係などへの関心の度合いが家庭によって開きがある。 ・ 学校公開や授業参観、保護者会などへの出席者をさらに多くしていく。 ・ 特別支援教育についての理解がまだ十分に行き渡っていない面がみられる。 ・ 学習などのボランティア活動にも目を向けさせ、学校への関わりを啓発していく。

